



## 米子市埋蔵文化財センターたより



第27号

2017年12月

### 中世墓や神社跡などを確認！

#### 一日南町新屋宮ノ段遺跡―



中世墓の石敷(手前)と神社の建物跡(奥)

日南町新屋地内で実施していた宮ノ段遺跡の発掘調査は、11月末までに今年度の現地調査を完了しました。調査の結果、縄文時代早期から前期前半期までの土器片が出土したほか、円形の土坑が数基見つかりました。これらの土坑の中には、底部が袋状になっているものもあることから、食糧などを貯蔵した穴ではないかと推測しています。また、丘陵の先端部では神社の跡と見られる建物跡と石を敷き詰めた遺構を確認しました。神社跡は石を列状に並べて建物の基礎としたもので、大正4年に多里神社に合祀された青瀧神社の跡と推測されます。神社跡の近くから見つかった石を敷き詰めた遺構は、一辺が2m程の範囲に河原石を置いたもので、石の隙間からは中世前半頃の土器の破片が出土しています。この遺構は墓として作られたものと推測していますが、もしかすると仏教の経典などを埋納した経塚の可能性もあります。

この石敷の下に何が埋まっているのか、とても気になるところですが、これから日南町は本格的な冬の季節を迎えます。この続きは、来年度の春から再開する調査にご期待下さい。中世墓と神社跡は、来年度に実施する現地説明会で一般に公開する予定です。(佐伯)

## 発掘調査情報

### —尾高城跡山下の調査—

尾高城跡は、戦国期に西伯耆の拠点城郭として整備された中世の城跡です。

山下地区は城の南西側の裾部に位置し、1977年(昭和 53)に県道工事に伴って実施された発掘調査では、本丸と中の丸の間にある堀から土塁によって防御された通路が山下地区の外へ延びることが確認されていました。

今回の調査地は、その南東側に隣接しており、前回確認された遺構に続くと考えられる土塁と通路が確認されました。

通路は幅 1.5～2.5mで、昭和 53 年調査の通路(幅 3.0～3.3m)よりも狭くなっています。土塁は農道工事や畑の耕作によって削られていましたが、基底部の幅 2.0m、高さ 0.6mが残されていました。今回の調査によって、土塁や通路がさらに外へ延びていることが確認され、尾高城跡の山下通路の構造と規模の様子をさらに知ることができました。(高橋)



検出された土塁の基底部

## 整理室たより

### 米子城跡出土資料の整理

—平成 27・28・29 年度調査資料—

整理室では、2015 年(平成 27)から米子市教育委員会が実施している米子城跡の発掘調査で出土した遺物の整理を行っています。

遺物は八幡台地区、水手郭下郭地区、登り石垣地区、番所下地区から出土したもので、大半が城の瓦類です。その他には碗、皿、鉢、瓶などの陶磁器類、銭、小刀、刀、和釘などの鉄製品、硯などの石製品がみられます。

瓦類は、軒丸瓦、軒平瓦、平瓦、鯨瓦、鬼瓦など各種の瓦ですが、軒丸瓦、軒平瓦の瓦当文様は様々あり、慶長～嘉永年間に城の屋根を飾っていたと思われ、製作年代の違いを表しています。また、年号刻印や記号刻印のある瓦もあり、これらの出土資料が米子城三百年の歴史を物語ってくれます。(小原)



米子城の瓦整理作業の様子

上の山古墳は、米子市淀江町福岡の上淀集落の西側の小枝山山稜の東端に所在する古墳です。

1924年（大正13）に発行された鳥取県史跡名勝地調査報告第二冊「因伯二国に於ける古墳の調査」に報告されて注目されました。

1957年（昭和32）、石室の蓋石が運び去られたのを契機に佐々木古代文化研究室によって発掘調査されました。

全長35m、高さ4.5mの帆立貝式の古墳で葺石を持ち、円筒埴輪や楕形埴輪、家形埴輪が採取されています。埋葬施設は、T字状に配置された2基の竪穴式石室で第1石室は盗掘されていましたが、短甲などのほかに僅かな鉄器が知られています。第2石室から直刀、鏡、500個を越す小玉や小勾玉が出土しています。

淀江平野の代表的な中期初頭の古墳で、淀江平野を治めた首長の墓と考えられています。（小原）



1957年の調査風景



第1・2石室

## コラム 江戸時代を掘る①

米子城8遺跡は、米子市加茂町2丁目16-1に所在する遺跡で、1995年（平成7）に米子商工会議所建物の新築に伴い発掘されました。

ここは米子城跡の外郭内の武家屋敷地で、城の大手筋に面しており正門にも近い場所です。

1720年（享保5）の絵図によれば、臼井金右エ門、伊木小次郎の屋敷地となっています。

幅4mの用水路や土坑、石列などの遺構が検出されましたが建物跡は発見されませんでした。遺跡からは伊万里焼や唐津焼の陶磁器、漆器、下駄や曲物などの木製品、簪、煙管、釘などの金属品等々、多数の遺物が出土して江戸時代の暮らしを物語ります。時期的には17世紀以後に整備された屋敷地と考えられます。（小原）

## —米子城8遺跡—



調査地全景と用水路



用水路の堰

## センター・資料館日誌

- 9月23日(土) 上淀廃寺彼岸花まつりに運営スタッフとして協力を行った。
- 10月4日(水) 福市考古資料館で企画展「弥生時代の米子」—稲作がはじまったころ—を開始した。



企画展展示状況

- 10月6日(金) 群馬県の竹政氏が福市遺跡の舟形土器の調査で来館された。
- 10月10日(火) 玄関展示ケースの展示替えを行い四日市町遺跡の資料を展示。
- 10月28日(土) 第2回考古学講演会「米子の弥生時代を探る—弥生集落の発掘調査—」を開催した。
- 11月3日(金) 米子市文化財団フェスティバルで火起し体験ブースを開設した。



火起し体験ブース

- 11月8日(水) 立命館大生の山本氏が縄文早期土器資料の調査で来館された。
- 11月9日(木) 鳥取県博の酒井学芸員が瓦経資

料の調査で来館された。

- 11月12日(日) 史跡ガイドウォーク「大寺、坂長の史跡を巡る」を開催。
- 11月25日(土) 第3回考古学講演会「米子の弥生時代を探る—お墓から探る社会と変化—」を開催した。
- 11月27日(月) 鳥取大生の山本氏が炭化米資料の調査で来館された。
- 11月29日(水) 文化庁立岩調査官が上淀廃寺壁画資料調査で来館された。鳥取大生の足立氏が博労町遺跡土器資料の調査で来館された。日南町宮ノ段遺跡の今年度の現地調査が終了した。
- 11月30日(木) 島根大学の岩本准教授が古鏡資料の調査で来館された。
- 12月13日(水) 鳥取県博の酒井学芸員が瓦経資料の借用で来館された。
- 12月16日(土) 山陰中世土器検討会が埋文センターで開催された。

## 編集後記

大山が白く化粧して、寒い冬がやって来ました。歳月の過ぎ行くのは早く、もう師走となってしまいました。

ミサイルや「付度問題」、横綱暴力事件など様々なことがあった一年でしたが、現場での事故もなく無事に過ごせたことに感謝して、新しい年を迎えたいと思います。

発行日 平成29年12月20日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp